



# ピラン(スロヴェニア)

素材研究  
(海外)

## 宿泊して浸りたい町 ヴェネチアの面影漂うピラン

かつてユーゴスラヴィアを構成していたスロヴェニアは、イタリアとクロアチアに挟まれた小さな国。総面積は2万273平方キロと、四国とほぼ同じ広さです。国内にわずか45キロしかない海岸線に面したピランは、歴史風情漂う町としてJATA「ヨーロッパの美しい村30選」に名を連ねています。



町中心のタルディーニ広場を囲む家々



ピラン出身の作曲家タルディーニの像



ピランの塩はお土産にも人気



イストラ半島の先端の町・ピラン

### 古代ローマ時代の歴史や ヴェネチア共和国の影響も

ピランはアドリア海を望むイストラ半島の先端に位置し、海岸線を北に辿るとイタリアのトリエステやヴェネチアへ、南はクロアチアのスピリットやドブロヴニクに至りま

### コンパクトで多彩な魅力 スロヴェニア一国の周遊を

ピランから20分ほどの塩田では古来の製法で塩が造られており、近郊のコペルはワインの町として知られ、ワイナリーもあります。パドナ村は樹齢300年を超えるオリブの木があることで有名。いずれも女性や食に興味のある客層に訴求できる素材です。

歴史は古代ローマ帝国時代に遡り、その後ビザンチン帝国やスラブ人の支配を受け、1283年にヴェネチア共和国の傘下に入り多大な影響を受けることとなりました。ヴェネチアの面影も漂う中世をそのまま閉じ込めたような町は半日もあれば散策できる規模で、天気が良いければ海岸からイタリアン・アルプスも望めます。イタリアからはフェリーや陸路で簡単にアクセスできるため、また町のホテルも限られ、団体向けのもは少ないことから日帰りや立ち寄り訪問が多いのですが、町の雰囲気や味わいつつ、近郊の見どころを訪れるならば1泊するのが望ましいところです。その際、グループ向けのホテルは近郊の町ポルトローシュを利用することとなりますが、「ポルトローシュはピランの海岸線の延長上にあり、ケンピンスキーなど質の高いホテルをはじめ、海の泥などを用いたスパを設けているところもあるリゾート地。質も規模も多様で、滞在自体も楽しめる」とスロヴェニア大使館公使参事官のマティヤシユニンゴリチ氏は提案します。

(写真提供:Slovenian Tourist Board)

またピランから首都のリュブリャナへは車で50分ほど。「1週間もあれば十分国内をひと巡りできる」とイングリチ氏が語るように、この国は非常にコンパクト。さらに「海辺の町ピランという個性を生かし、街の魅力が凝縮しているリュブリャナ、世界遺産のシニコツイアン鍾乳洞、ブレッド湖など海、山、洞窟、街といった多様な魅力を盛り込んだスロヴェニアの旅を造成していただきたい」と話すように、短期間で多様な魅力が楽しめるのもこの国ならではの特徴でしょう。



オリーブもピラン近郊の特産品



3つの橋が絵になる首都リュブリャナ